令和元年度
種子島地区文化財保護審議会委員等研修会事例発表

『鉄砲記』による鉄砲伝来についての一考察

西之表市　奥村　学

「鉄砲記」
慶長11年(1606)　鉄砲伝来より63年後、久時の求めにより、薩摩の儒僧南浦文之が記したもの。南蛮船の漂着、鉄砲の伝来、製作、普及までが書かれてある。父14代時堯の功績を後世に伝えるためのもの。

鉄 砲 記

　隅州の南に一島あり。州を去ること一十八里、名づけて種子と曰ふ。・・・・・是より先天文癸卯八月二十五丁酉、我が西ノ村小浦に一大船有り。何れの国より来れるかを知らず。客百余人、其の形類せず。其の語通ぜず。見る者以て奇怪と為す。・・・・
・・・・

・・・是に於て織部丞又書して云ふ。「此を去ること十又三里にして一津あり。津を赤尾木と名づく。我が由つて頼む所の宗子世々居る所の地なり。津口数千戸あり。戸ごとに富み家ごとに昌えて、南商北賈往還織るがごとし。今船を此に繫ぐと雖も、要津の深くして且つ漣たざるの愈るに若かず。之を我が祖父恵時と老夫時堯とに告げん」と。時堯則ち扁艇数十をして之を拏いて二十七日己亥船を赤尾木の津に入れしむ。・・・

【参考】
■『種子島家譜』
「八月廿五日、西ノ村浦に一大船漂来す。・・・・・
・・・即ち時貫、人を遣はして恵時に告げしむ。恵時、群臣に命じ、軽舟をして之を拏かしむ。廿七日、船を赤尾木の津に入る。・・・・・」

◎種子島への漂着
天文癸卯（みずのとう）８月２５日丁酉（ひのととり）
天文 12 年 8 月 25 日（西暦 1543 年 9 月 23 日）
１７:００～１９:００
・日の出　6:06　　日の入　18:12
砂上に筆談できるか
・月　　三日月（新月から３日目）　暗闇
早馬が可能か

■「鉄砲記」の英訳
・・・
Meanwhile.at 6:00 p.m. on the 25th day of the 8th month on Temmon 11(9/23/1543), one large ship came to a small inlet near Nishimura on our island of Tanego.　・・・・
・・・
In consequences,Tokitaka dispatched several dozen boats and had tow the foreign ship to Akaogi,where she arrived at 10 a.m. on the 27th.　・・・・

・早馬は鎌倉時代より使われる。（蒙古襲来のとき）
室町時代、種子島にすでに早馬の設備があったか　？
日本の馬は小型で遅い。10 数キロごとに乗り換えていく。
赤尾木まで 13 里（52km）４～５頭の馬が必要。
一般的に、夜の早馬は無理。

（ウィキペディア）
生麦事件での早馬は、江戸～吉田（豊橋）を２日半かかっています。東京から豊橋は約３００キロですから、３００キロを６０時間です。

◎赤尾木津への曳航
『鉄砲記』　　扁艇数十
『種子島家譜』　　軽舟をして
『鉄砲伝来考』　　十反帆の船　12 艘
『南種子町郷土史』　六隻の引き舟
『鉄砲記』英訳　　several dozen boats

江戸時代　異国船漂着船の曳航